

緑地・樹木を利用する鳥類への配慮について

夢洲の会場整備にあたり、緑地・樹木を利用する鳥類への配慮として、次のとおり様々な植栽等を行うことにより、鳥類の生息等が可能な環境の確保に努めます。

会場予定地内での主な緑地整備の場所を**図1**に、整備スケジュールを**図2**に示します。

- 夢洲及びその周辺で見られる鳥類が、一時的なとまりや休息として利用可能な場所となるよう、会場中心部 (**図1の①**) に、関西の里山を構成する在来種を中心とした高木約1,500本や下草など、夢洲の環境に適した樹種を植栽し、広さ約2.3haの「静けさの森」を整備します。
- ヒバリ、セッカなど、開放的な空間や草地を好む鳥類が飛来可能な場所となるよう、会場予定地の西部 (**図1の②**) では、盛土後の法面約1.8haに芝系を中心とした種子の吹き付けを行い、緑地を確保します。
- 「静けさの森」や会場予定地の西部以外の場所においても、会場内全体で花き類や植栽帯の配置等を計画し、緑量の確保に努めます。
- 会場予定地の南西部に位置する「つながりの海」内にある沈殿池 (**図1の③**) は、大阪市が土地造成を行うために水位を一時的に下げたことで、水域部分の一部が陸域化し、湿地帯が形成されたことで植物等が生育するようになり、シギ・チドリ類などの鳥類が好んで生息等できる環境となっているため、2024年度後半までは現状の維持に努めます。
この場所は、万博開催前の2024年度後半からは水位を上げることにより水域化しますが、万博終了後の2025年度後半から再度水位を下げるため、現在と同様の環境になる予定です。

以上のとおり、緑地・樹木を確保する計画・整備を順次進めることで、これらの場所が鳥類においても、一時的なとまりや休息等に利用可能な環境となるよう努めていきます。

なお、大阪市の計画では、万博が終了し解体工事等を終えた後、夢洲1区 (**図1の④**) 等を緑地として将来利用する予定です。

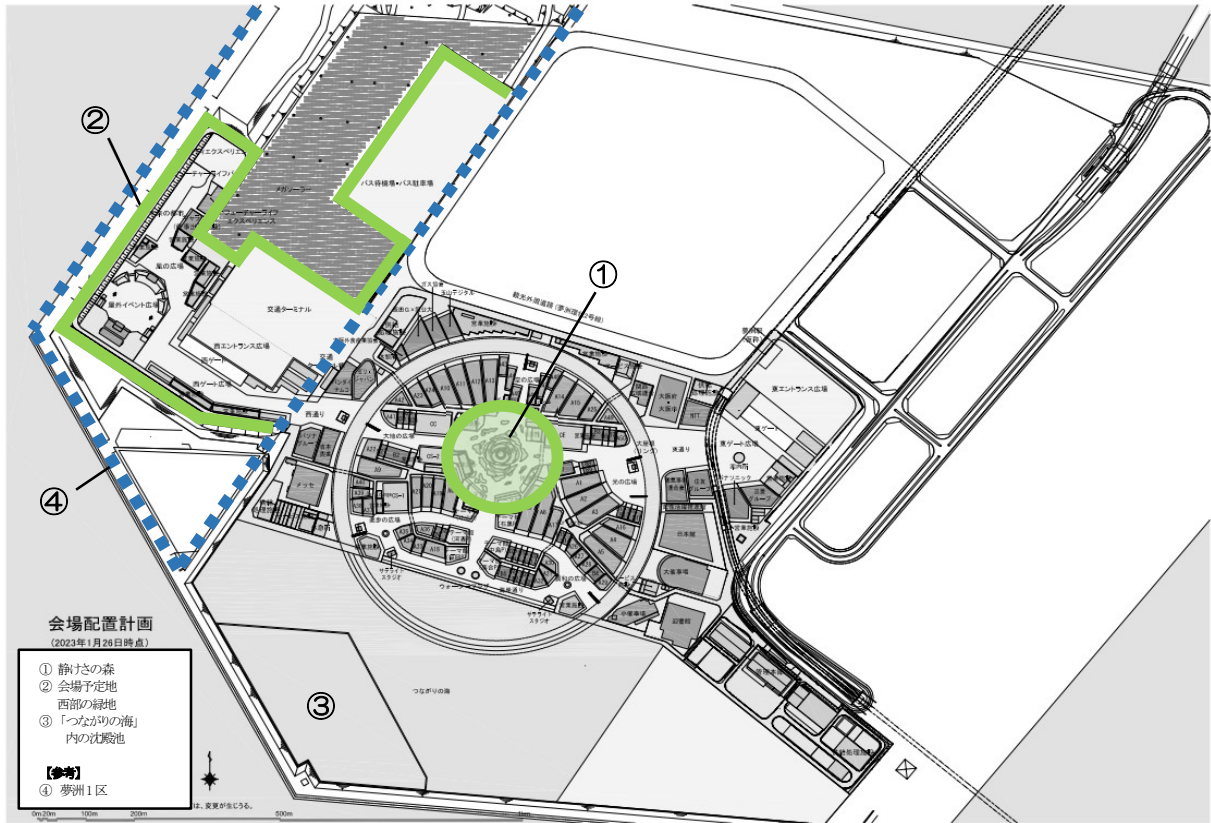


図1 緑地・樹木等の配置図

位置	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
① 静けさの森	盛土工事等	植栽工事等	大阪・関西 万博開催	移植工事等
② 会場予定地 西部の緑地※1	盛土工事等	植栽工事等		利用可能
③ 「つながりの海」 内の沈殿池 ※2	利用可能	利用可能		利用可能

※1 環境影響評価書では「グリーンワールド」と表記

※2 環境影響評価書では「WW沈殿池等」と表記

図2 緑地・樹木の整備計画(スケジュール) (2023年10月時点)